

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 果樹係

No.1 (令和5年4月18日)

新田原果樹部会、春季栽培管理講習会を開催

～今年も果樹栽培が始まります～

4月12日から14日にかけて、新田原果樹部会を対象に果樹の春季栽培管理講習会を行い、イチジク、キウイフルーツ、モモ、ナシの生産者、35名が参加しました。

冬のせん定作業が終わり、令和5年度の栽培管理作業が本格的に始まり、各品目の春季管理作業である芽かきや摘蕾等について、普及指導員が実技を交えながら説明を行いました。これらの作業は大玉で高品質な果実生産に欠かせない作業で、新規就農者等、作業経験の浅い生産者も参加していることから、丁寧に説明を行いました。

中でも新田原の主力品目であるイチジクでは、これから芽かきが重要な作業となるので、作業が遅れないようにスケジュールを組むことを重点的に指導しました。灰色かび病にかかった枝を切除すること、樹勢に応じて施肥を行うことや、果樹の重要害虫であるカイガラムシ類の生態と防除のコツについても説明を行いました。参加した生産者は普及指導員の説明に熱心に聞き入っていました。

行橋市の新田原地区は古くから高品質の果樹産地として知られています。普及指導センターは今年度も高品質の果実をたくさん生産できるよう、きめの細かい支援をしていきます。



講習会の様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 野菜係

No. 2 (令和5年4月20日)

新たな露地園芸品目の導入に向けて ～「サラサラごんぼ」収穫の受託試験を実施～

管内では、ブロッコリーやレタス等の露地野菜の単価低迷により作付面積が減少していることから、JA 福岡京築や全農ふくれんと協力して作業受託による新たな露地園芸品目の導入推進に取り組んでいます。

令和4年10月に築上町にて、県育成品種「サラサラごんぼ」の機械化一貫体系で畝立て、播種、マルチ被覆を行いました。今回は令和5年4月に収穫を実施しました。収穫はゴボウ掘り上げ機を用い、抜き取りなどを5人で行うことで、効率的に作業ができることを確認しました。

ゴボウは、収穫・調製作業が全労働時間の約65%と大部分を占めており、収穫用の機械や調製用の洗浄機などを揃えるには多額の費用がかかることから、新たに生産を始めるにはハードルがあります。

そこで、今回の実証で得られた労働時間や費用を試算し、JAの作業受託を進めることで、生産者の負担軽減によるゴボウの作付拡大が期待されます。

普及指導センターは引き続き、関係機関と協力し、経営が安定する新たな品目の選定を支援していきます。



「サラサラごんぼ」の収穫作業

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 野菜係

No. 3 (令和5年4月28日)

アスパラガスの栽培管理講習会を開催

～高収量・品質向上に向けて～

アスパラ部会勝山支部は、4月13日に栽培管理講習会を開催しました。

講習会では、アスパラガスの曲がりを防ぐ晴天時の温度管理や、フェロモンによる交信かく乱剤を活用したヨトウムシ防除について説明しました。

JAからは、令和4年度の販売実績や今後の活動報告がありました。生産者からは、液肥を散布するタイミングや交信かく乱剤を設置する時期など、様々な質問が出され生産に対する意欲が感じられました。

アスパラ部会勝山支部は、研修会の開催やインショップをはじめとする消費者への直接販売で得られた声に応えることで、高品質なアスパラガス生産をしています。

普及指導センターは引き続き、関係機関と協力しながらアスパラガスの生産拡大や収量・品質の向上を支援していきます。



アスパラガス講習会の様子

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 果樹係

No. 4 (令和5年5月1日)

大平柿研究会総会を開催

～産地の伝統を受け継いでいくために～

4月25日に大平柿研究会および大平柿研究会干し柿部会総会が開催されました。

上毛町(旧大平村)は古くからカキの産地として知られており、町内のカキ生産者団体である大平柿研究会は「富有」「太秋」や、県育成品種である「秋王」を栽培しています。また、干し柿の製造も行っています。

上毛町で栽培されているカキのうち、特産品種である「川底(かわそこ)」は、江戸時代から400年以上栽培をされている渋柿です。干し柿に適しており、古くは小倉藩主細川忠興公に献上されたという記録もあるほどの名産品であり、消費者からも高い評価を受けています。現在も福岡市内の百貨店で販売されており、高い評価を得ています。総会の中で、今年度は干し柿約2,000個の生産目標が設定されました。

普及指導センターから、今年度は着果量が多く、高品質な果実生産のために摘蕾・摘果が重要なカギになることや、病害虫の発生予察等について説明をしました。

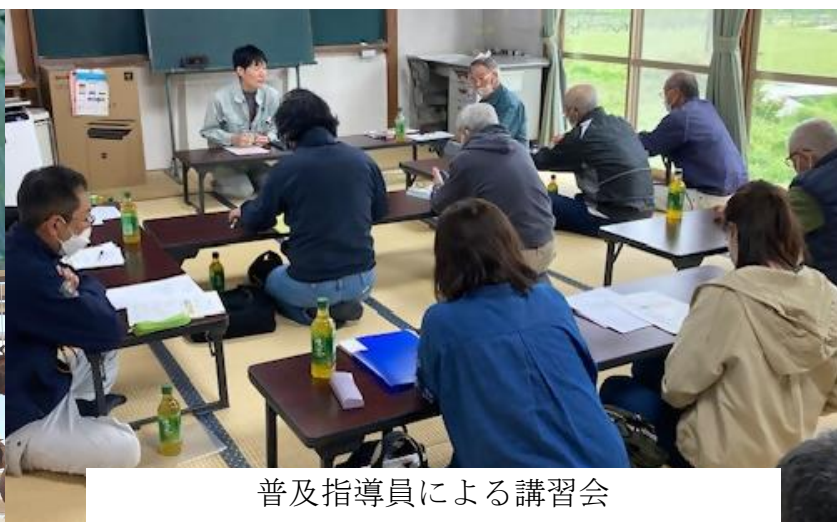
普及指導センターでは今後も生産者の所得拡大や、貴重な地域資源の維持・発展を支援していきます。



川底柿



干し柿



普及指導員による講習会

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 地域係

No. 5 (令和5年5月8日)

築上町農福連携反省会が開催されました

～農業と福祉の更なる連携強化に向けて～

令和5年5月1日、築上町役場・JA福岡京築・農業共済組合・普及指導センターで組織されている築上町農業振興連絡協議会の主催で、町内の4つの障がい者福祉施設を招き、農福連携に係る反省会が開催されました。

この反省会は、昨年度から実施している福祉事業所への白ネギの調製作業委託について、出荷終了に伴う活動の総括が目的です。

町からは令和4年度に開催された会議や研修会などの活動報告があり、JAから実際の作業委託実績について報告がありました。また、作業に取り組んだ福祉事業所からは、施設での作業の流れや作業を行った利用者の人数などの実情と、規格外品の判断や取扱いなどの改善点について報告がありました。普及指導センターは、白ネギの品質向上及び作業効率向上と、新しくイチジクの調製作業委託について情報提供を行いました。

築上町産業課からは、「将来的に、農福連携という言葉を使わずとも当たり前に関福と農業が共生できる社会を目指して、この活動に力を入れていきたい。」と決意表明があり、今後の更なる連携支援に向けて全体の意識が高まりました。

普及指導センターは今後も農福連携支援に取り組み、地域農業の発展を目指していきます。



農福連携反省会

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 6 (令和5年5月12日)

京築大規模土地利用型農業研究会の総会が開催されました

～地域農業を担う農業者の経営発展に向けて～

令和5年4月27日、「京築大規模土地利用型農業研究会」の総会が開催され、会員や関係機関等約20名が出席しました。本研究会は、おおむね10ha以上の経営規模を持つ農業者で構成され、自己研鑽を図り、地域農業の発展に寄与することを目的に活動しています。

総会では、令和4年度の事業報告・収支決算、令和5年度事業計画・収支予算等について協議され、全て承認されました。また、スマート農業の先進技術を学ぶことを目的として令和4年度に実施した秋田県視察研修の報告がありました。

普及指導センターからは、麦の収穫予想や農作業安全について説明を行い会員の研鑽に努めました。

普及指導センターは、農業情勢やスマート農業の最新技術等の情報を提供し、今後も会員の農業経営の発展を支援していきます。



総会で挨拶を行う大田会長

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290
E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
園芸畜産課 野菜係

No. 7 (令和5年5月23日)

夏秋ナス現地栽培管理講習会を開催

～初期成育と高収量の確保に向けて～

京築地域では夏秋ナスの生産が盛んで、県内でもトップレベルの作付面積を有しています。夏秋ナスで高収量を得るには生育初期の管理でつまづかないことが大切ですが、JA福岡京築夏秋ナス部会では毎年新規生産者が加入しており、栽培経験の浅い生産者が多いことから、良好な株の姿や適切な管理を学ぶ場が求められていました。

そこで、JA福岡京築と連携し、5月17、18日に管内2ヶ所の高収量生産者のほ場において現地栽培管理講習会を開催したところ、生産者18名の参加がありました。

講習会では、管内のナスの生育概況、生育初期の管理のポイント、今後注意が必要な病害虫と対策について説明し、参加者と株を見ながら質疑応答を行いました。

また、高収量生産者から普段の栽培管理において気をつけていること、工夫していることについて説明がありました。

参加者からは、肥培管理や今後の病害虫防除等について多くの質問が出され、今後のナス栽培に対する意欲が感じとれました。

普及指導センターでは、今後も関係機関と協力し、地域の夏秋ナス生産力強化の支援や次代を担う新規生産者の育成を行っていきます。



普及指導員の説明に熱心に聞き入る夏秋ナス部会員

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 野菜係

No. 8 (令和5年5月24日)

JA 福岡京築 勝山ねぎ生産部会総会の開催

～更なる付加価値と環境に配慮した生産を目指して～

令和5年4月21日、JA 福岡京築勝山ねぎ生産部会総会が勝山アグリセンターで開催されました。

勝山ねぎ生産部会は、平成16年に福岡県減農薬・減化学肥料認証を取得し、環境にやさしく、安全安心なねぎ栽培に取り組んでいます。生産される勝山ねぎは、特にみずみずしさと鮮度の良さ、棚持ちが良いねぎであると評価されており、今回、将来的な有利販売を目指し、新たに福岡県ワンヘルス認証（認証番号 0021）を取得した事の報告がありました。県内のねぎでは最初の認定です。

勝山ねぎ生産部会の販売先は、学校給食やインショップ、直売所ですが、時期によっては生産量が足りず、需要に応えられない時もあり、単収の向上や規模拡大、新規生産者の確保を含めた生産量の確保が課題です。

普及指導センターは関係機関と協力し、勝山ねぎの生産拡大に対する支援を行います。



令和5年度 総会開催



福岡県ワンヘルス認証

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

園芸畜産課 野菜係

No. 9 (令和5年5月24日)

新しい農業振興の形に挑戦！

～農福連携と日本を股にかけた生産基盤を～

上毛町では、新しい農業基盤の挑戦として、かぼちゃのリレー栽培に着目し、支援しています。

株式会社 ABE FARM 代表の阿部良多氏は、北海道でかぼちゃを生産していますが、年間を通じた栽培、天候不良などのリスク分散の観点から他の栽培地を探していたところ、上毛町で栽培する機会を得ました。

現在、5月から8月までは北海道赤井川村で約8ha、4月から7月と8月から12月は上毛町で80a程度かぼちゃを栽培しており、年に数回、上毛町に来て栽培管理を行っています。上毛町では福祉法人に栽培方法を教えながら、就労支援の一躍も担っています。また、かぼちゃ栽培実績が積み重なるにつれて、地元の農家にもかぼちゃの栽培希望者が広まりつつあり、上毛町役場としても、新たな園芸品目としても期待しています。

普及センターも、暖地でのかぼちゃ栽培を支援し、新たな生産体制に着目していきます。



かぼちゃ作業を行う阿部氏



上毛町のかぼちゃ圃場

活動情報

TEL 0930-23-4215 FAX 0930-23-8290

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

地域振興課 水田農業係

No. 10 (令和5年5月23日)

大豆の播種前講習会を開催

～大豆の収量・品質向上に向けて～

5月18日にJA福岡京築主催で大豆栽培講習会が開催され、約50名の生産者が参加しました。

JA福岡京築管内では大豆が約800ha栽培されており実需者からさらなる生産量拡大が求められています。

講習会では、JA福岡京築から令和4年産大豆の実績、JA全農ふくれんから大豆の情勢、普及指導センターからは大豆の栽培のポイント、特に適期播種の重要性と雑草対策についてそれぞれ説明しました。

管内は集落営農組織や大規模経営体を中心となって大豆栽培を担っており、1組織当たりの栽培面積は大きく作業が長期間にわたるので、事前に作業計画を立てること、部分浅耕一工程播種技術の普及を含めて適期播種を推進していきます。

また、令和7年産より管内で栽培が始まる新品種「ふくよかまる」についても特徴等が説明され、実際に「ふくよかまる」を使った豆乳が配布されました。生産者からは大豆の管理方法や雑草の防除方法についての質問が出ていました。

普及指導センターでは、大豆の増収による生産者の経営安定に向けた支援を行います。



大豆講習会の様子